食用バラ生産の埼玉・ローズラボ、農家の「6次化」支援

#新型コロナ #SDGs #埼玉

2023/3/7 10:05 [有料会員限定]

ローズラボ社長の田中綾華さん

食用バラの生産や関連商品の販売を手掛けるローズラボ（埼玉県深谷市）は、農業の「6次産業化」をめざす農家の支援、中国向けの電子商取引（EC）など事業を多角化する。特にESG（環境・社会・企業統治）、SDGs（持続可能な開発目標）を意識した環境配慮型の商品や事業を展開し、需要を掘り起こしたい考えだ。

ローズラボは2015年の設立以来、深谷市での食用バラの栽培だけでなく関連食品・化粧品の開発・加工、製品販売までを一貫して手掛ける6次産業化に取り組んでおり、東京・六本木にも事業拠点がある。新型コロナウイルス禍でイベント向けのバラの需要が減少するなど厳しい環境にあったが、コロナによる事業への影響が緩和してきたことから、3月以降に農家の6次産業化支援を本格化させる。

ローズラボはバラの生産から化粧品などの製造販売まで「6次産業化」に取り組んできたノウハウを生かし、農家の支援事業に取り組む

全国で食用バラの生産農家を増やすため、同社が協力農家から食用バラ全量を買い取り、商品に使用する仕組みなども今後構築する。

中国向けのECは3月中旬をメドにサイトを立ち上げる。取引先である伊勢丹新宿店（東京・新宿）などと連携し、同社が製造する無農薬バラを使った環境・自然配慮型の化粧品を販売する。田中綾華社長は「農業は6次産業化まで含めると大きな可能性を秘めた産業だ。環境への意識の高まりを踏まえ、事業を展開したい」と話している。